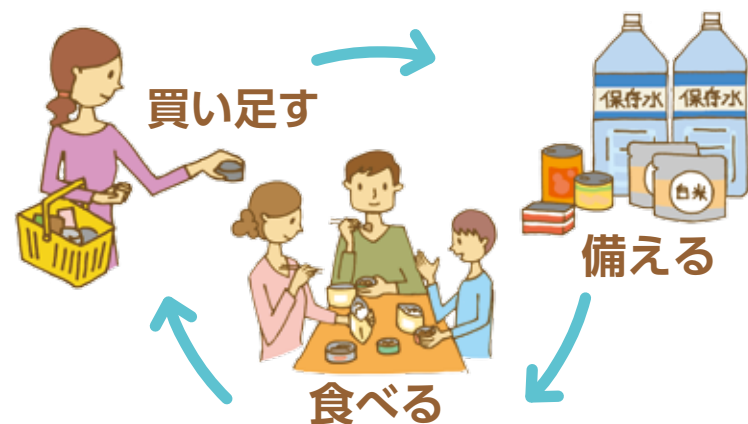


「自助」の 備えは万全に



避難所物資は非常用です。全ての方に食料などが行き届くとは限りません。各家庭でも非常用持ち出し袋を必ず用意しておいてください。



▲ローリングストックで安心の備えを

また、ライフラインが途絶えた中での自宅待機を想定した飲料水や食料などの備蓄、家族などとの連絡方法の確認、家の中や塀の安全対策など、ご自身でできる対策の見直しをお願いします。

日常生活の中で使う食材を多めに常備しながら普段の生活の中でも使用し、消費した分を買い足していく「ローリングストック」も有効です。この方法は、家族の好きなものをそろえられるので、災害時の緊張状態をほぐすことにもつながります。

ブロック塀の安全点検を

ブロック塀の倒壊は、災害時の避難や救助・消火活動の妨げになることがあります。所有者の責任



で、日頃から倒壊予防などの管理を行うことが必要です。

住宅の外構などに使われているブロック塀は、道路に沿って設置されているものがほとんどで、種類もさまざまあります。しかし、経年劣化による傾きやひび割れ、鉄筋が入っていないなど、安全性に欠けるものも多くあるのが現状です。ことし4月に発生した熊本地震でも、倒壊したブロック塀の下敷きになったことが原因で亡くなった方がいました。

自宅のブロック塀に気が掛かる点がある方は、一般社団法人全国建築コンクリートブロック工業会のホームページ内「ブロック塀の診断カルテ」を参考に、点検・管理を行ってください。

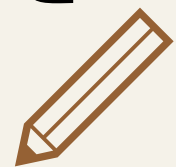
生垣設置奨励制度

生け垣はブロック塀のように倒壊する危険性が低く、災害対策としても有効であり、緑豊かなまちづくりにもつながります。

住宅地に新たに生け垣を設置する場合は、「生垣設置奨励制度」をご活用ください。この制度は、樹木の種類など一定の条件を満たすものについて、生け垣の長さ1坪につき7000円（上限14万円）を交付する制度です。同制度に関する詳細は、環境みどり課（☎235・4913）へお問い合わせください。

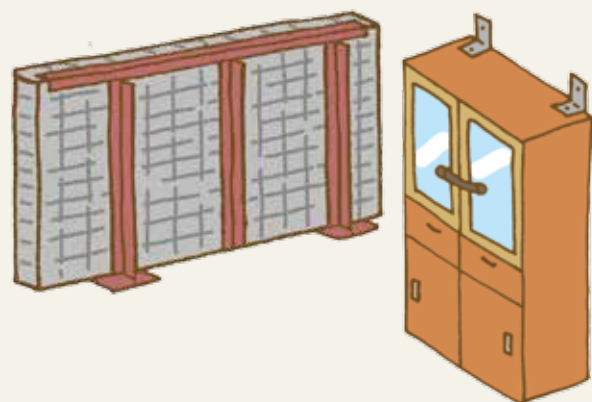


我が家・家族で これだけは準備を



✓家の安全対策

- ・家具が転倒しないよう、壁に固定する
- ・寝室や子ども部屋には、できるだけ家具を置かないようにする。置く場合はなるべく背の低い家具にし、倒れた時に入りにくさをふさがないよう、家具の配置を工夫する
- ・ブロック塀や屋根などの点検



✓食料・飲料などの備蓄

食料・飲料・生活必需品などの備蓄の例（人数分用意する）

- ・1人1日3日を目安に、3日分以上の飲料水
- ・3日分以上の食料として、ご飯（アルファ化米など）・ビスケット・チョコレート・乾パンなどの非常食
- ・トイレットペーパー・便袋・ティッシュペーパー・マッチ・ろうそく・カセットコンロなど



✓非常用持ち出し袋

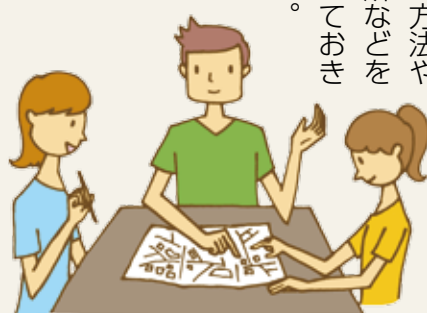
非常用持ち出し袋の内容の例（人数分用意する）

- ・飲料水・食料品（カップめん、缶詰、ビスケット、チョコレートなど）
- ・貴重品（預金通帳・印鑑・現金・健康保険証など）
- ・救急用品（ばんそうこう・包帯・消毒液・常備薬など）
- ・ヘルメット・防災頭巾・マスク・軍手・懐中電灯・衣類・下着・毛布・タオル・携帯ラジオ・予備電池・携帯電話の充電器・使い捨てカイロ・ウェットティッシュ・洗面用具・携帯トイレなど



✓家族同士の 安否確認方法

別々の場所にいるときに災害が発生した場合でもお互いの安否が確認できるよう、日頃から安否確認の方法や集合場所などを話し合っておきましょう。



✓避難場所や 避難経路の確認

防災マップやハザードマップ（災害予測図）などで、避難場所、避難経路を事前に確認しておきましょう。



▲防災アプリも役立ちます